

# 初等中等教育における現場の事例

## 【県立A高等学校】

### ■学校概要

生徒数1,100人程度。普通科高校で、ほぼ全員が4年生大学へ進学。国公立大学には東京大学・京都大学・埼玉大学をはじめとして100名前後の合格者を輩出している進学校

### ■授業概要

▶授業内容は「データベースの仕組み」及び「著作権とセキュリティ」について

▶平成19年度は2～3年次に1単位(週1時間)、平成20年度からは3年次で2単位(週2時間)の授業を実施

### ■情報教育担当教員のコメント

▶授業の方法について手探りの中、ようやく事例が集まってきている段階

▶就職率の高い学校であれば、技術的な指導の方が必要であり、各学校で教科「情報」へのニーズは異なる

▶本校では、生徒が将来職業選択をする際の、選択肢の一つとなるような指導を心がけている

▶中等教育においても、就職ガイダンス等で、目に見えにくいITのような分野の職業についても説明をしていくことが必要

## 【私立B工業高等学校】

### ■学校概要

生徒数1,000人程度。7割近くの生徒が工業系の大学・専門学校に進学

### ■授業概要

▶情報A(※)の授業を実施。ITを使いこなすことが目的

(※)情報A:情報B、Cの要素も含め、「情報」を概論的に捉えている科目。最も多くの学校で開講されている。

情報B:コンピュータを活用するための、科学的な考え方や扱い方を学ぶ科目。理系的。開講している学校は少ない。

情報C:コンピュータなどを効果的に活用する方法を学び、情報社会に参画する上で望ましい態度を養成する科目。文系的。

### ■情報教育担当教員のコメント

▶工業科でも、授業内容は試行錯誤の状態。他教科と違って、電子・情報に関しては技術的な変化が激しく、3年経つと同じ授業はできなくなる。そのため「どんな授業を行うべきか」、教科書がはっきりとしたビジョンを示すべき

▶初等中等段階では、ITに関して、興味・関心を持たせることが大切。理論の授業だけでなく、(パワーポイント作成など)実際に「もの」に触れることが重要

▶教え方のノウハウがないままで企業から出張授業を受けても、子供たちは理解できず興味を削ぐ結果となり逆効果の場合もあり、初等中等教育段階のレベルに合わせた内容であることが必須

## 課題の整理

- ・ 教科「情報」の授業の方法について、ノウハウが確立していない
- ・ 生徒の進路によって「情報」に求められるニーズも異なる。ニーズに見合った授業方法の整備が必要。
- ・ 授業方法の整理とともに、地域単位でIT業界OB等を講師として活用するための取組等の検討も必要。
- ・ ベストプラクティスを収集し、普及することで全国的な取組へと発展させることが必要。
- ・ 高等教育機関が独自に工夫している、若年層の興味を引きそうな実験プログラムのような派遣事業も一案。